

1. 「おたがいさま」の応援紹介

① 肉じゃがとクリスマスソング

60代のミツオさんは、一人暮らしです。以前は、弟さんがご飯の支度などを受け持ってくれていましたが、弟さんが亡くなり、「脚が痛くて買い物にも出かけられない」と困った状況になりました。

市役所に相談すると、「地域包括支援センターで相談に乗ってくださいよ。」とアドバイスしてくれました。地域包括支援センターでは、介護保険のことを教えてくれましたが、「自分はまだ介護保険は利用したくない」と思ったミツオさん。「それなら、生協の有償の助け合い活動を利用してはどうですか。」と『おたがいさま』を紹介されました。

相談を受けた『おたがいさま』では、すぐにコーディネーターがミツオさんのお宅を訪問して、詳しくお話をうかがいました。

「とにかく食事と買い物に困っています。」と言われるミツオさん。毎日自宅まで配達してもらえる“夕食宅配弁当”があることを紹介しましたが、「もう何年もお店で買ったものしか食べていないんです。できれば手作りのものが食べたいんです。」との希望です。

こうして、食事づくりの応援が始まりました。



ミツオさんは、その後、生協の組合員になりました。毎週、応援者と一緒にカタログを見て、食べたいものや作って欲しい料



理の話をしながら商品を注文します。そして、1週間後に自宅へ届く食材を使って、ミツオさんの希望に沿った食事をつくってもらっています。「応援者さんに作ってもらった肉じゃがが、とても美味しかった！」こんな喜びの電話が『おたがいさま』事務所に届くこともしばしばです。

そんなある日、『おたがいさま』事務所へ「ピアノ伴奏を教えて欲しい」という依頼がありました。ミツオさんが音楽の先生だったことを知っていたコーディネーターは、ミツオさんにこの応援をお願いしてみました。「久しぶりだけれど…できるかな？」と言いながら、快く引き受けてくださったミツオさん。これは、利用者が時には応援する側にもなるという、まさに“おたがいさま”の出来事でした。

ミツオさんから寄せられた感想です。「応援をさせてもらったお陰で若返り、一緒にクリスマスソングを弾くことができました。それに、いつも家庭的なあたたかい食事を食べることができて、涙が出るほど嬉しいですよ。応援者さんたちといろいろなお話をして元気をもらっています。」



想いに沿った手助けをしてもらえる嬉しさと安心感、応援できる喜びと役立ち感の両方を経験されたミツオさん。

『おたがいさま』を利用して、何より健康になりましたわ！実は、白髪が少しずつ黒くなってきたんですよ。ハハハ！」